

グループワークのためのプログラム活動の提案と効果測定

外来精神科クリニックにおけるデイナイトケア

The proposal and measurement of program activities for group work

○稲葉伸子・松田隆夫

INABA Nobuko, MATSUDA Takao

新大塚榎本クリニック

Shin-otsuka Enomoto clinic

Key words: デイナイトケア, グループワーク, アンケート調査

目的

新大塚榎本クリニックでは、通常の外来診療に加え、デイナイトケア治療を行なっている。治療の柱のひとつはプログラム活動を通したグループワークである。当院では平成25年4月に新たに「パン作りプログラム」を立ち上げ、隔週で月に2回実施している。プログラムの目的は、以下である。

- ① 食べる楽しみをプログラム参加意欲につなげる
- ② ものづくりの楽しさを体験する
- ③ パン生地をこねることによるセラピー的効果
- ④ 作業を通して対人交流を図る

本発表では、参加メンバーがプログラムをどのように捉えているか、プログラム活動の効果、グループワークとしての機能を調査・考察することを目的とする。

方法

2回以上パン作りプログラムに参加しているメンバー11名を対象としてアンケートを行ない、分析、考察した。質問項目は、以下の8つである。

- ① パン作りプログラムへの初回の参加理由
- ② 継続してプログラムに参加した理由
- ③ パン作りプログラムで楽しいことは何か
- ④ パン作りの作業の楽しさについて
- ⑤ 他の参加者と交流をもっているか
- ⑥ 他の参加者と作業を分担していることについて
- ⑦ パンが焼けた時の感想
- ⑧ プログラムを通じて感じたこと。

結果

目的①に対しては、質問項目①②③より、「食べるのが好きだから」という初回の参加理由に比べて、「パンが食べたいから」という継続の理由は目立っていない。しかし、プログラムで楽しいことでは「焼き立てパンを食べること」が一番多く、自由記述でも焼き上がりの感動や、実際味わったおいしさについて書かれるものは多かった。

目的②に対しては、質問項目①②④より、初回の参加

理由は「パンを作ってみたかったから」がもっとも多く、継続の理由では「パンを作るのが楽しかったから」がもっとも多い。パン作りの作業については、9割のメンバーが「楽しい」もしくは「とても楽しい」と感じている。自由記述では「プログラムを通してものを作ることの楽しさを感じた」というメンバーも複数いた。

目的③に対しては、質問項目②③④より、「パンを作るのが楽しかったから」という継続理由がもっとも多く、「こねる作業が楽しい」と感じているメンバーも多い。また、「生地をこねている感触が心地良い、癒される」という回答がみられた。

目的④に対しては、質問項目⑤⑥より、参加者との交流を「もっている」もしくは「かなりもっている」と答えたメンバーは7割であった。作業分担については、6割が「何も思わない・気にしていない」と答え、否定的な回答はなかった。自由記述では「プログラムを通して他のフロアのメンバーやスタッフと交流できることがよい」とこたえたメンバーは多かった。

考察

「食べる楽しみ」は、初回のプログラム参加意欲に関わっているが、その後プログラムに継続的に参加する理由は、パン作りの「楽しさ」であった。パン作りは、ものづくりの楽しさのあるプログラムであり、パン生地の感触にはセラピー的効果がある。参加メンバーは、パン作りの作業を通して他の参加者と交流がもてることを肯定的に捉えており、さらにスタッフが一緒に作業に参加し、場の調整が行われることで、参加者同士のコミュニケーションがより促進される。また、プログラムを継続的に行うことで、参加メンバー同士のまとまりや主体性など、グループとしての成長が見られる。パン作りプログラムはグループワークとして機能していると考えられる。

参考文献

井上, 1990, 精神障害者の地域デイケア・グループワークに関する考察 I, 駒沢社会学研究 22, 27-41